

マイクさんの胸が痛むほど感動する話



自分が好きなことを生業としている、と言える人はあまりいない。私は合気道を愛している。そしてそれを教え、そのための自分の道場も持っているが、「私は常に生徒である」という気持ちも忘れないようにしている。

合気道小林道場での住み込み体験は今回二度目であり、私は「生徒である」ということがどういうことかを再確認するためである。はるばるテキサスから、テキサスの人々は皆馬に乗るカウボーイばかりと思っている人々のいる日本に来て、私はまた稽古のために整列し、先生に礼をする機会を得た。

先生は、合気道小林道場の道場長である小林保雄先生だ。武道界においてもっとも重要な人物の一人である小林先生と同じ部屋にいるというのは、夢が叶ったとしかいいようがない。道場長に毎日のように会っている日本の弟子達は私と同じようには感じないと思われるかもしれないが、彼らもまた、この伝説の人物と接することによって畏敬の念を感じ、それは彼と交流を持った何千人もの人々が共有している念でもある。

この伝説の人は普段は非常に謙虚な人だが、それが彼を私にとって特別な存在にする理由である。彼は、常に彼自身であり、そしてまた、日々さまざまな方法で「ただ稽古あるのみ」というメッセージを発信し続けている。私が思うに、彼は生徒たちが稽古する音が好きで、無骨なまでに単純な方法でその音を「調律」しているような感じだ。

内弟子としての日常は、まず、その日行く道場にもよるが、四時五十分か五時十五分に起床し、心身をその日行う様々な作業ができる状態に持っていくことを意味する。小平の朝稽古ではこのような感じだ：道場長が階段を下りてきて、きしむ音をたてながら門を開ける。その音で、私たちは道場長が本当に愛することをしに来たことを知る。私は、その門の開閉の音が、今後もずっと続いて欲しいという気持ちにさせられた。

私が先生に声を掛けられる度に、私が直立不動の姿勢をとり、間髪入れずに「ハイ、センセイ！」と反応することを、先生はよくからかったりもする。また、先生が皆を投げたから、どれだけ彼自身「元気」なのかを皆に伝えるところがとても好きだ。世界中からの集まる人々に合気道の謎を紐解き、その面白さを見つける手助けに、彼が人生を費やしている、ということとはとても重要な点だ。彼の喜びと感動は、人生においてたとえ何か（私にとってそれは合気道）に真剣に取り組んでいたとしても、人生そのものに真剣になり過ぎる必要はない、ということ私に理解させてくれた。先生の周りでは笑いが絶えることは無かった。

組織としての合気道小林道場の活動を見るのは特に興味を深かった。家族経営組織の中で、道場長が、息子であり副道場長でもある弘明先生を含む、指導員達を監督する姿を見る機会を得た。非常に統制されており、規則正しく経営されているというのが私が最初に感じたことだ。金曜日の朝稽古は、一般会員も参加できる指導員のための稽古である。そ



の稽古の後の朝食は私たち内弟子が準備する。私が当番の時には、トーストにバターとジャム、卵と果物を用意した。先生方はこの「テキサス風」の朝食が気に入ったようだったが、実はこういった料理を作ったのはそれが初めてのことだった。その場で思いついたものだがうまいったようだ。

弘明先生は内弟子達に、何をするかを的確に指示をする担当でもある。この親子は素晴らしいパートナー関係を持っている。二十五歳のときに両親を亡くした私には、道場長の奥様を含む、この家族を観察で





きたこともいい経験となった。道場長の奥様は道場長と共に小林道場の発展のために歩いてこられた重要な人物である。弘明先生の家族とも朝食をとる機会もあった。弘明先生と実代子さん、その娘の香穂ちゃんだ。香穂ちゃんはとても人懐っこく、一緒にいて楽しい子だ。彼女は私の象の鳴き声の真似が大好きだった。木曜日の朝には、道場長と共に朝食をとる。それは、

この偉大な人の隣にすわっているのがどれくらいすごいことかを再確認する場でもあった。

時に、私たちは、東京各地の傘下道場と、道場長が教える大学合気道部にも同行する機会があった。明治大学体育会合気道部は五十年もの歴史があるというのが、私には信じられない。

昨年、先生は九段下にある彼の生家へ私達内弟子達を連れて行ってくれた。その後に、靖国神社のみたままつりにも行った。そこでは、人々が踊りに興じていて、それを録画した。その中には先生が踊る姿もある。そのほかにも、新宿にある本部道場も訪問した。小林道場の会員はとても多いので、年三回の昇段・昇級審査はそこを借り切って行われる。

私は小林家が奉納している高麗神社にも行った。また、今年初めて茨城県岩間にある合気神社の大祭に参加することもできた。誰もがその時期、例年になく雨が続いていると言いき、それまでは決して雨が降りやまないだろうと思っていたが、その日は天候に恵まれた。

その他にも、私は生まれて初めて実際に桜の花を見る素晴らしい機会を得た。その美しさには息を飲むほどの経験だった。先生は三十五年以上も前に、小平道場の前に桜の木を植えており、内弟子は毎日花びらや、落ち葉や小枝を掃除しなければならない。だか私にとって、掃除とは稽古前に心を清めることであり、稽古前に道場やその周りを清めることがどれだけ重要かがその作業を通して実感することができた。



私は常にまず生徒であることを自覚しており、私の前の師が亡くなった後に喪に服していたが、それも終わり、再び合気道の師を探し修行を再開するということがとても重要であった。私はそれを小林道場で小林先生に出会うことで達成できた。私が最初の師の組織であるAAAをサポートをしている間も、私と私の生徒に活力を与えてくれる存在が必要なのだが、私はそのエネルギーを小林道場で得ることができた。道場長と弘明先生は、私を受け入れてくれて、この偉大な歴史と伝統の一部に触れる機会を下さったことにはいくら感謝してもしきれない。私の生徒は、私に対し恩があるというが、私自身は道場長に対し同じ気持ちである。その恩に対し、私は、私自身と私の生徒達が稽古で精進することによってのみ、道場長に彼の寛大さへの恩返しができるのであろう。また戻ってきます！

最後にもう一つ。サヨナラパーティーは素晴らしく、その二次会も同じように楽しかった。



私は皆の温かい気持ちと、目に新しい色々な贈り物を頂いた。本当に、道場長と副道場長には彼らが私の師やAAAのためにしてくださったことにはいくら感謝してもしきれない。私が日本語で言うことができるのは「ドウモアリガトウゴザイマシタ」だけだが、この好意を返すことができるように、皆さんにはぜひテキサスに来てほしい。